

住民主体で福祉のまちづくりを推進する情報交流紙です

よつ葉のクローバー KIKUSUI

No.15 2008.11.25

菊水福祉のまち推進センター運営委員会
札幌市白石区菊水6条4丁目3-10
電話 011-887-7006 FAX011-887-7006



福まち通信

高齢者のふれあい交流会

11月6日(木)午前10時から、今年度第2回目の「高齢者ふれあい交流会」が地区会館で開かれました。平成17年度から行われ恒例となっていますので、高齢者の皆さんは、お友達とお誘いあわせて続々と会場に詰め掛けられていました。今回も、菊水上町の老人施設「こまちの郷」から数人の高齢者の方々が参加しておられます。

写真コンテスト表彰式

開会の挨拶が真鍋会長から行われた後、今回初めて行われた「菊水地区写真コンテスト」の表彰が行われました。応募作品39点・写真枚数94枚の中から「日本唯一の真円・円形歩道橋」(撮影者(南)佐藤剛さん)が最優秀作品として選ばれ表彰されました。

なお、優秀作品として山下さん(上白石小)、枝元さん(西)、山中さん(東)が表彰されました。

転倒予防劇

高齢者にとって不注意に転倒することは、ときとしていろいろな障害や病気を誘発する原因になります。



最優秀として表彰される佐藤さん

区役所の保健師さん、介護予防センターきくすい、白石区第2地域包括センターの皆さん、それにまちづくりセンターの中田所長さん、今回初めて参加された菊水地区民生委員・児童委員協議会の山田会長さんらによる、転倒予防のお話や、予防に役立つ体操やゲーム、それに楽しい寸劇が行われました。



菊水地区写真コンテスト最優秀作品
「日本唯一の真円・円形歩道橋」佐藤 剛さん



ぐうたらな生活の菊子さんを叱りに来る水戸黄門様



一生懸命に勉強を始めた菊子さん



努力した結果普通の生活に戻った菊子さん

めでたしめでたしのカーテンコール

転倒予防体操をしました

寸劇のあとでは、介護予防センターきくすいの菅野さんの指導でみんなで体操をしました。久しぶりに大きく腰を伸ばして、「気持ちよかったね」と話しあっていました。



精一杯腰を伸ばしました



黄門様も一緒にしました

悪徳商法から身を守るお話

札幌消費者協会の方から、振り込め詐欺や悪徳商法から身を守るために役立つお話を聞きました。いくつかの実例を聞いて、しっかり勉強しなければとうなづく人が多く見られました



血圧測定・健康相談・特定高齢者チェックリスト

恒例の健康相談がおこなわれましたが、今回は特定高齢者チェックリストの質問用紙を前に、真剣に回答欄にチェックをつけている姿が印象的でした。保健師さんに「貴方は、まだまだ大丈夫です」と太鼓判を押されて、にっこり微笑む人が多かったようです。



振り込め詐欺には気をつけよう

ゆび編みコーナー 1階の会議室には大勢の皆さんが集まり、菊連協の女性部の皆さんの指導でゆび編みでマフラーを作っていました。教えてもらって忘れていた勘を取り戻したのか、指が上手に動くようになり、毛糸の玉がマフラーに変身していきます。



写真コンテストパネル展

今回初めての菊水地区写真コンテストは、テーマを～これぞ菊水の魅力～として募集したところ、予想を超える作品の応募があり、それぞれ菊水に対する思いをこめた作品を提供してくれました。

円形歩道橋や豊平川に架かる橋、白石公園の桜、街路から望む藻岩山、市街地発展の蔭に残ったサイロなどのほかに、人情のまちを象徴する人々の笑顔、元気な子どもたちの表情を捉えた作品などが目を引きました。

ランチタイム 今回のランチは、ちらし寿司です。味噌汁、漬物、それにヤクルトやお菓子のお土産までついていました。

女性民生委員さんを中心に手作りで用意してもらっています。



参加された宮川区長さんも舌鼓を打っていました。

お楽しみアワー

今回のお楽しみアワーは、「ひとりOKストラ」の佐々木志郎さんをお招きしました。

佐々木さんは足でフットベースを操り、両手でギターを弾き、口でハーモニカを吹くという演奏をします。「ラ・クンパルシータ」や「夜霧の忍び



逢い」のような曲から、古賀メロディ、ナツメロ歌謡、童謡・唱歌、ポップスまで、なんと1000曲くらいのレパートリーを持っています。この日も、客席からのリクエストに応じて、次々と演奏を重ね拍手喝采を浴びていました。

どんぐりころころに ブラス・バンドが

10月25日、子育てサロンの「どんぐりころころ」に子育て中のお母さんを主カメンバーとする「札幌マミーズ・ブラス」がやってきました。



普段は、菊水地区会館で行っていますが、この日のために幌東小学校のご協力をいただき、同校の屋内体育館で開催しました。普段の何倍もある体育館ですから、子どもたちは精一杯はしゃぎ回っていましたし、お母さんたちもいつになく

浮き浮きしていたようです。バンドの演奏が始まるとみんな前のほうに集まり目を輝かせて聞き入っていました。

「アンパンマンのマーチ」、「崖の上のポニョの主題歌」、



ちびまるこから「ララのテーマ」を演奏すると踊りだす子もいました。アンコールでは「マッハ全開」が演奏され、やよい児童会館の小学生が曲に合わせたダンスを披露するなど、多彩な演出に参加者は酔いしれていました。土曜日ということでお父さんの姿もあり家族団らんの一日でした。



札幌マミーズ・ブラス

平成19年に結成された女性だけのブラスバンドである。メンバーは20~40歳代の子育て中のママさんやプチ・ママさんたち60人。メンバーはもともと「知らない同士」。それが、団長の佐藤友美さんが、札幌にも女性だけのブラスバンドがあったらという思いを、インターネットの掲示板に載せると、その呼びかけにあっという間に続々とメンバーが集まった。学生時代に吹奏楽をやった経験のある人。結婚して、子どもが生まれ幸せだけれども、楽器とはなれた今のくらしがどこか淋しい。そのような思いを持ったママさんたちが沢山いたのだ。

札幌国際大学の横山先生を指揮者に迎え東区民センターで練習をしている。



ママの足元でおとなしくしている



子どもをおんぶしたり、抱っこしての迫力ある演奏

「子どもをおんぶしたり、片手であやしながらの練習でも、演奏しているときがとても楽しい」と皆さんが言う。

幼稚園などへの出前演奏は引きもきらず、来年の3月までの出演予定は満杯

12月の21日に「第1回定期演奏会」が白石区民センターで午後1時から開かれる。入場料は300円。

「楽しい演奏会にする予定なので、沢山のご参加をお待ちしています」と佐藤団長はいう。

福祉のお仲間訪問

今年の8月に新しい仲間が誕生しましたのでご紹介します。

ほほえみ共同作業所

あなたは音の聞こえない世界を想像できますか。この共同作業所には、耳の聞こえない方、それに加えて目や手足の不自由な方、知的障害のある方などの重複聴力障害者の方がたが日中 10 人ほど通ってこられます。3 人の職員の援けを借りながら、自立した生活を求め、社会参加するために頑張っているのです。

数多くある共同作業所のなかで、聴力障害をもち、手話をコミュニケーションの手段としている人たちの自立支援をしている作業所は、市内ではこの作業所が唯一の存在です。

平成 17 年に設立し、初年度は社団法人札幌聴力障害者協会やボランティアの力、それにたくさんの理解ある方々からの募金や寄付金だけに頼って運営してきましたが、2 年目からは活動の実績が認められ、札幌市の援助を受けて運営しています。発足当時、琴似のマンションの 1 室を借りて活動してきましたが、菊水 3 条 1 丁目に一戸建ての建物を借りることが出来たので、今年の 8 月に引越してきました。



作業所のみなさん。中央でしゃがんでいるのが中村さん

作業所の一瞥 月曜日から金曜日(土曜と祝祭日を除く)までの毎日、地下鉄を利用して通ってきます。自力でこれない人は家族やボランティアの送迎を受けます。朝の会の後、お昼まで作業をします。昼食はほとんど自分たちで交代で作ります。午後は作業や学習、レクリエーションに当たっています。作業は一人ひとりの力や希望に応じた軽作業です。箱折り、封筒づくり、マスコットづくりなどを行っています。学習は、買い物や調理の体験、言葉や文字の学習などで、社会生活に必要な知識を蓄えます。施設利用料は月額 1500 円で、昼食代として 1 食 200 円が必要です。

スタッフ 設置主体は(社団)札幌聴力障害者協会です。所長は中村千恵さんです。彼女も聴力障害者ですが、口話法に通じていて、話し言葉を相当程度理解できますし、会話は流暢です。二人の職員は耳が聞こえます。

近所の受け入れ この作業所が転居してくるに当たって、大家の W さんは近所の人たちにこの作業所の内容についてきちんと説明してくださいました。そのおかげで地域にスムーズに受け入れられています。町内会長さんも町内会員として受け入れる準備を整えておられますので、作業所が地域の一員として立派に成長していく日も近いことでしょう。



封筒



紙箱



兔、ねずみ、牛の置物



ミニわらじ



アイ・ラブ・ユー

札幌市聴力障害者協会とは 日常生活において、手話を主なコミュニケーション手段とする、成人聴覚障害者で構成する当事者団体です。ろうあ者のことばである「手話」は、かつて、人間のことばではなく、まるで動物の言葉のように蔑まれていました。ですから学校教育でも手話は排除され、聞こえる人と同じように口話法を用いるよう強いられてきました。昭和 22 年、ろうあ者の親睦と交流のために「札幌ろうあ協会(現協会の前身)」が結成されると、次第に「ろうあ者の生活と権利を守る」意識がたかまりました。そして、その運動の中核に「手話」を社会の中に根付かせることを掲げました。その結果、現在では、かつて排除されてきた手話を耳の聞こえる人たちが学び、耳の聞こえない人とのコミュニケーションに活用するまでになってきたのです。

耳が聞こえないということで、社会的不利を重ねてきた聴力障害者が、手話を通じて社会参加し、社会の発展のために共に貢献することがこの協会の目標です。

編集後記

札幌にも初雪が降りいよいよ冬将軍の到来を迎えます。庭の木に冬囲いをするように、人々の心にも支えあいの福祉の冬囲いをまわって、世界経済不況の嵐を乗り越えていきたいものです。風邪など引かれませんように (枝元)